

1. 本研究は大分大くじゅう総合学術調査の一環として〈住民の生活—家庭生活〉について調査した結果に対しての再調査である。変ぼうする農村と家庭生活，農家生活の現状—その実態と問題点のいくつかをあげることができたが究極に，農業生産問題に追われての〈家庭生活不在〉の表現にとどまった。家政学はこれを主題としその実態，要因を明らかにすべきであると考え，家庭生活についての認識，その核となる家族意識を家庭経営の状態と関連してみることにした。

2. 調査対象をくじゅう飯田地区婦人学級とした。これを漁村部，都市部旧市街住宅地，新市団地と比較した。婦人学級学習集会でのアンケートを資料とした。

3. (i) 〈家庭生活不在〉の状態は農村だけでないこと。

(ii) 農村のみでなく生産性向上について漁村都市それぞれに問題を抱えている。

(iii) 入試体制，消費革命，生活革新，貯蓄推進等〈期待される〉人間像や家庭像が示されている今日の世の中を暮すために，家庭生活みずからの目的機能を認識する核となる家族意識の自覚と社会科学認識が必要であること，それを基盤として家庭の経営管理がなされるべきことを主張したい。